

奥羽大学報



目 次

平成19年度卒業証書・学位記(学士・博士)授与式	2
博士(歯学)学位記授与／記念植樹／謝恩会	5
父兄会	6
2008年度共用試験歯学系CBT、OSCE特別実施	7
日本歯科医学会総会への歯学部学生の参加	
附属病院／私が薦める一冊の本	8
余滴	9
同窓会／同窓生のひろば	10
退職によせて	11
人事／慶弔	12
郡山自転車ロマン紀行(第6回)	13
平成20年度教務日程(歯・薬)	別刷
平成20年度授業時間割(歯・薬)	別刷

118

平成19年度**卒業証書・学位記(学士・博士)授与式**

平成19年度卒業証書・学位記授与式は、3月10日(月)午後1時から記念講堂において行われ、歯学部歯学科90名に卒業証書と学位記が、また大学院修了者6名及び論文提出者4名に博士(歯学)の学位記が授与された。

式は、多数の来賓の方々のご臨席のもとに、ご父兄、教職員が参列し、挙行された。

理事長祝辞、学長告辭に続き、卒業生を代表して米村裕樹さんが答辞を述べた。

さらに成績優秀者賞授与が行われ、最後は卒業生ひとりひとりに卒業証書と学位記が授与され式を閉じた。

式場の外では多数の在学生が卒業生を取り囲み、花束を贈り記念写真を撮り、いつまでも別れを惜しんだ。

各賞の受賞者は次のとおりである。

晴川賞	磯田智代
優等賞	小野寺海保
	米村裕樹

**告辭****学長 清水秋雄**

本日、奥羽大学平成19年度卒業証書ならびに学位記授与式を執り行うに当たり、ご来賓の学校法人晴川学舎理事長影山英之先生はじめ役員各位、また多くの関係の方々のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。所定の期間、厳しい学業の研鑽を積み、晴れて社会への巣立ちに、大いなる敬意を表しますとともに、ご家族の皆様に心よりお喜び申し上げます。

皆さん、本学に入学された6年前の想いはいかがだったでしょうか。おそらく、有為な歯科医師を目指し、勉学に勤しみ、多くの学友を持ち、クラブ活動に参加し、文化・芸術に親しみ、楽しく充実した大学生活が送れるようイメージしたことでしょう。卒業期を迎えた現在、歯科医療人として具備すべき専門性、協調性、倫理観等の達成度は、満足されるものでしたでしょうか。

さて、これから皆さんが参加する現社会は、物質文明や科学技術の発展、人口構造問題、国際事情の変化等、数多くの要因が、政治経済、教育、医療福祉、倫理等あらゆる分野に影響を及ぼし、恩恵を受けた領域がある一方、負の遺産や厳しい状況下にあるものもあります。

特に、社会生活の心の支えとなる精神文化への重要性が軽んじられていることに危惧を抱くところであります。しかし、医の倫理観においては、医師が自らを律する規範「ヒポクラテスの誓い」から発展的に、患者と医療人とは同じ人格をもって対等の関係を保ち、医療人のみならず、患者にも倫理を求める考え方を全うしようとする考えが定着してきました。

このように、かつて経験したことがない、想定外の多様な問題が生じています。比較的安定していた先進国においても、社会的政策のみでは解決し得ない課題が山積しています。

かような移り変わりの激しい社会で生じた諸現象に対する解決の糸口になるのが、社会

祝　辞

理事長　影山英之

卒業証書並びに学位記を手にされます皆さんと御臨席なされましたご父母各位に心よりお祝いを申し上げます。

本日はまことにおめでとうございます。

皆さんにとりまして今日までの長い間には多くのことを経験なされたことと思います。限られた時間では到底語り尽くせぬ程の数多くの経験は、「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく、必ずや皆さん的人生に豊かな実りを齎す良質な肥料となってくれることを信じております。

とりわけ最後の学生生活である本学で皆さん「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行ってくれれば、私共にとってこれ以上の喜びはありません。

何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみることです。失敗は成功の母、何度も立ち直る努力を厭わなければ挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることです。一日一日実行し、繰り返し積み重ね続けていく先に新たな可能性が生まれ、目標は達成されます。

これから後、皆さんが常に良識と善意を備え、歯科医療をとおして地域社会に貢献なされ、世界平和に寄与してくれることを希っております。

結びに、本日御臨席されました皆々様の御健勝を祈念して、祝辞といたします。



答　辞

卒業生代表　米　村　裕　樹

本日は、私達のために、このような盛大な卒業式を催していただき、誠にありがとうございます。ここに僭越ではございますが、卒業生を代表いたしまして、一言御礼を申し上げます。

只今、理事長先生、学長先生をはじめ、御来賓の皆様から激励のお言葉を賜り、卒業生一同、感激を新たにしております。

私達は、今日をもちまして、長かった学生生活に終止符を打つこととなりました。今日まで私達が歩んできた道を振り返りますと、入学当初は、慣れない土地での新しい生活に不安や戸惑いをおぼえ、また、日々進歩し、複雑化する歯科医療技術を学んでいく過程では、多くの困難に何度も直面しました。しかし、共に歩んできた友人達の存在は、目まぐるしく過ぎてゆく日々の生活に、心のゆとりと鮮やかな彩りを添えてくれました。また、諸先生方には、時に優しく、時に厳しく指導していただき、私達が道に迷わぬよう、目標となる方向を指し示してくださいました。そして、歩みに疲れ、立ち止まりそうになつたとき、暖かい光となって私達を理解し、見守り続けてくれた家族にも、心から感謝しています。これら多くの方々の存在は、これから私達の人生においても、誇りとなり心の支えとなるでしょう。

私達は今、何処へ続くのか見通すことの出来ない社会へ新たな一步を踏み出そうとしています。これから歩み行く道には、いまだ経験したことのない多くの壁が待ち受けていることでしょう。しかし、これまで身につけてきた多くの知識と経験は、その壁を乗り越えるための力と信じ、勇気を持って立ち向っていく所存であります。また、今まで多くの方々に支えられ、背中を押され歩んできたことを思い出し、胸を張って一步一步、確かな足跡を残していくうと思思います。

本日までご指導くださいました諸先生方や大学関係者の皆様方に、心より御礼申し上げ

ますとともに、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後となりましたが、諸先生方や御来賓の皆様方の今後のより一層のご健勝と、奥羽大学のますますのご発展を、心より祈念いたしまして、答辭とさせていただきます。



博士(歯学)学位記授与**博士課程修了による学位記授与者**

古橋 拓哉 (口腔機能回復学)

「インプラント周囲骨の応力解析—被圧変位性が実測値に近似する有限要素モデルの応用—」

茂呂 尚紀 (口腔機能回復学)

「全部床義歯装着者の顎堤粘膜圧痛閾値が咀嚼能力に及ぼす影響」

細野 聰子 (咬合機能修復学)

「漏斗状根管に対するガラス繊維強化樹脂ポストを応用した支台築造」

園田 正人 (顎口腔外科学)

「ラット口蓋粘膜における炭酸ガスレーザー・パルス波照射後の治癒過程」

春山 博貴 (小児歯科学)

「ビスホスフォネート投与によるラット臼歯萌出遅延過程の病理組織学的解析」

廣瀬 将邦 (顎顔面口腔矯正学)

「Twin block appliance 装着後のII級1類不正咬合者における脳活動」

論文提出による学位記授与者

西上 堅二 (生体構造学)

「血管内皮細胞のtube formationにおける低出力レーザー照射の影響—線維芽細胞とのco-cultureによる検討—」

富田 祐介 (口腔機能分子生物学)

「グルタミン酸味覚受容体の性質」

根本 徹 (歯科補綴学)

「CAD/CAMで製作した純チタン製コーヌスクローネの着脱回数が維持力の変化に及ぼす影響」

藤岡 一途 (口腔機能分子生物学)

「GPCR味覚受容体の特徴」

記念植樹

平成19年度卒業生による記念植樹が3月6日(木)柔らかな日差しのもと、「躍進の像」西側にて行われた。大学生活の様々な思い出と大きな希望とともに、歯学部卒業生の手によりケヤキが植樹された。

**謝恩会**

平成19年度歯学部卒業生による謝恩会は、3月10日(月)19時より市内ホテルハマツにて開催された。

関係者も多数出席し終始和やかな雰囲気の中で、卒業生は恩師への別れを惜しみながらも在学中の思い出に浸り、また将来への期待と抱負を新たにしていたようである。卒業後、それぞれの道に進む卒業生にとって、最後の盛大な会になったようである。



父兄会

歯学部・薬学部父兄会の幹事会、総会は3月10日(月)に開催され、平成20年度の役員ならびに事業計画・予算について審議し、承認された。

主な内容については下記のとおりである。

歯学部**「平成20年度役員」**

歯学部父兄会

会長 渡辺 義宏
副会長 谷川 文紹
監査役 菅原 祝郎

「主な行事予定」

定時総会	平成20年 4月 4日(金) 平成20年 5月17日(土) 平成21年 3月10日(火)
保護者懇談会	平成20年 5月17日(土) 平成20年10月11日(土)

地域会（全体会・個別懇談会・懇親会）

20年6月28日(土)	大阪	大阪ガーデンパレス
20年7月 5日(土)	福岡	福岡ガーデンパレス
20年7月12日(土)	東京	八重洲富士屋ホテル

「予 算」

(収入の部)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繼 越 金	797,000
入 会 金	960,000
会 費	15,500,000
雑 収 入	5,000
合 計	17,262,000

(支出の部)

科 目	本年度予算額
通 信 費	220,000
印 刷 費	70,000
会 議 費	1,600,000
消 耗 品 費	5,000
旅 費 交 通 費	2,350,000
雑 費	100,000
地 域 会 開 催 費	4,523,000
課 外 活 動 援 助 費	5,010,000
学 生 福 利 厚 生 費	3,030,000
予 備 費	354,000
合 計	17,262,000

薬学部**「平成20年度役員」**

薬学部父兄会

会長 畑 伸一
副会長 吉川 真一
監査役 鈴木 洋子

「主な行事予定」

定時総会	平成20年 4月 4日(金) 平成20年 5月16日(金) 平成21年 3月10日(火)
------	--

「予 算」

(収入の部)

科 目	本年度予算額
前 年 度 繼 越 金	14,433,184
入 会 金	1,000,000
会 費	12,480,000
雑 収 入	12,000
合 計	27,925,184

(支出の部)

項 目	本年度予算額
通 信 費	200,000
印 刷 費	200,000
会 議 費	1,000,000
消 耗 品 費	100,000
旅 費 交 通 費	550,000
雑 費	150,000
課 外 活 動 援 助 費	2,300,000
学 生 福 利 厚 生 費	7,110,000
予 備 費	16,315,184
合 計	27,925,184

**2008年度共用試験歯学系
CBT、OSCE特別実施**

共用試験歯学系CBT特別実施が2月24日(日)、本学5号館で実施された。当日は猛吹雪の悪天候であったが、4年生93名全員が遅刻することなく無事受験することができた。今回の特別実施は本学を試験会場としてはじめて実施されたもので、特別実施委員長である江藤一洋機構副理事長やCBT実施小委員長である小口春久理事、さらに4名のモニターの先生方と機構の総務ならびに事業部から6名の方に来ていただいた。

共用試験歯学系OSCE特別実施は、3月9日(日)に本学附属病院で実施された。CBT同様に本学で共用試験OSCEを開催するのは初めてのことであったが、受験生93名に対し3系列6課題を無事終了することができた。OSCE特別実施に際し、江藤一洋副理事長やOSCE実施小委員長である俣木志朗理事をはじめとしてモニター・運営・SPならびに各課題担当者などの9名の先生方、また外部評価者として全国28大学から54名の先生方、さらに機構の総務から4名の方に来学していただいた実施であった。

大学が一丸となって取り組んできた共用試験歯学系CBT・OSCEともに、運営面など大きなトラブルもなく終了することができたことは、今後の歯学部の発展に繋がるものと思っている。

(鎌田 政善)

**日本歯科医学会総会への
歯学部学生の参加**

第21回日本歯科医学会総会が、11月14日から16日まで横浜市で開催される。歯科医学会総会は4年に一度開催される歯科界最大のイベントであるが、今回からデンタル・スクーデント・プレゼンテーションというものが学術プログラムの一環としておこなわれることになった。これは、将来の歯科医学研究者を学部の段階から養成することを目的としたものである。

本学からは6年生の今村ちひろさん、5年生の助川絵美さんと大桶綾子さんの研究が、それぞれ発表演題として採択された。素晴らしいプレゼンテーションが行われることを期待したい。なお、助川絵美さんは8月に日本歯科医師会主催で開催されるスクーデントクリニシャン日本代表選抜大会にも出場予定である。

(清浦 有祐)



附属病院**平成19年度医療安全総合研修会開催**

附属病院全職員を対象とした医療安全総合研修会は、3月14日(金)附属病院において開催された。これは、昨年の医療法の改正での医療機関の義務化事項で、一般的な医療安全研修会を年2回行う他に、院内感染対策、医薬品管理、医療機器管理の研修会が必要になつたためである。

まず、清野和夫病院長から開会挨拶があり、研修会の目的が説明された。次に医薬品安全管理責任者の遠藤初恵薬剤師から、医薬品の安全使用のための業務手順書の説明があった。次に医療機器保守管理責任者の山崎信也教授が、医療機器安全管理要領と医療機器の安全使用について説明し、医療機器事故の原因となつているアラーム問題を紹介した。さらに産業医久野弘武教授から院内でのウイルス感染予防、麻疹の対応について話があり、抗体価検査の重要性について説明があった。

最後に個人情報管理担当者の清野晃孝臨床教授から、個人情報保護法の概要と事例検討について説明があり、ワークショップに参加されたプロダクトをもとに個人情報保護法に抵触する事例紹介があった。多くの参加者のもと、4人の演者の円滑な講演により滞りなく終了した。

(山崎 信也)

平成19年度歯科医師臨床研修修了式

平成19年度歯科医師臨床研修修了式が、3月28日(金)に附属病院5階の臨床講義室で挙行された。平成18年度から卒後臨床研修が必修化されて、今年度が2回目の修了式となった。

はじめに、清野和夫病院長より臨床研修歯科医49名に修了書が授与された。続いて、天野義和歯学部長より、本学附属病院での研修に誇りを持ち、さらに習得した1年間の研修成果をもとに生涯研修として更なる精進と、歯科医師としての人間性の向上を期待する旨

の訓示が述べられ閉式となった。

本学附属病院での研修を修了した49名が、21世紀の歯科医療を担う立派な歯科医師として、さらに国民に望まれる歯科医師として大いに研鑽を積み、各地域で活躍することを願っている。

(鎌田 政善)

**附属病院研修セミナー**

平成19年度も附属病院研修セミナーが毎週木曜日に計44回開催された。臨床研修歯科医を対象とした本学教員による講演のほか、診療録整備委員会、医療安全推進委員会、院内感染予防対策委員会、福島県歯科医師会、本学卒業生による特別講演会、研修歯科医による症例報告会も行われた。非常に充実し意義深い1年間であった。

(田代 俊男)

私が薦める一冊の本**『上司の品格』**

(今泉 正顕著、PHP文庫)

『國家の品格』がベストセラーになり、続いて『企業の品格』『個人の品格』『男の品格』『女性の品格』など品格ものが次々と出版され、『品格の磨き方』なるものまで出版されるに至り、そんな状況で最初にこの表題を見たときには、正直言ってまた流行語を追った類似本かなと思った。

著者の今泉正顕という人物も知らなかつたが、ちょうどこの本を本屋さんで見かけたのが、郡山に赴任してすぐの時期で、この著者が郡山出身ということもあり、ちょっと読んでみようという気になった。福島県出身で著名人は野口英世ぐらいしか知らなかつたので、こちらの人はどのような考え方なのかとても興味があつた。

最初の読み始めから、“サムライ根性”とか会津藩の「日新館教育」で知られる“ならぬものはなりませぬ”という明確な規範を持った上司であつてほしいと書いてあるので、これはかなり古い思想の持ち主なのかなと思ひきや、本当は実際に起こつた事件や社会問題の現状を冷静にそして綿密に分析し、そしてこの著者なりに解析をしているのである。今、なぜ「上司の品格」が問われるのか、から始まり、部下の実体を知り、人間学を学べ、と続く。そして学ぶ心得として第一から第八まで著者の考えを列挙し、最後に歴史上の先達に学ぶ、で終了している。

八つの学ぶ心得は良く考えられていると感心させられる事ばかりで、この著者の見識の深さには驚嘆することしきりである。そのなかでも「風流(ゆらぎ)」という遊び心を忘れるなどいうところは身につまされる思いである。どんなに忙しい生活でも“息抜き”ができる心の余裕、“ゆらぎ”が必要であると説く。まさにその通りであると思う。そして、上品でなくともいい、下品な人間にはなるなとし、肩書きがなくなつてもあるいは定年退社したあとでも、元部下に慕われる人物こそ、理想的の上司像と言えると結論づけている。一つの大きな目標ができた思いである。

(木村 裕一)

余 滴

わからないかな?わかる話

伝えたり、説明したりすることは話せばいいじゃないかと簡単なようですが、実際には歳をとつた人でも高名な学者でも大変難しいように思います。人と状況によりけりですが、例えばどこかの行政の答弁などで、ポイントには答えないで「もし、、、であるならば、、、です」とどちらにでも解釈できるように、また答える人がたかも当事者ではないかのごとく答えることもあります。日本語に特有のあいまいさがあるのかもしれません、これを英語に翻訳する人は繋がりのない断片の話をしなくてはなりませんので大変だろうなと思います。はぐらかすことに慣れてしまつては、欧米のように筋道と傍証を持ってわかりやすい論議ができる人を育てるには、まだまだ遠い先のように思います。

20数年前テキサスで家族と暮らしておりました時、感心したことがあります。それは、小さな子供が小さな悪いことをしたときなのですが、先ず屈んで同じ眼の位置にあわせて、“Would you do,,, ?” 押さえつけではなく、お友達のようていねいにお願いを伝え、そしてゆっくりした調子でその理由を（怒らずに）説明していました。勿論アメリカの中にもいろんな人がいますので、たまたまかもしれません、わかりやすい言葉というのは聞く相手の立場で丁寧に話すことに尽きるような気がしました。私のことを振り返つてみれば、（親として）現実にはこのようにはとても振舞えなかつたことはいうまでもありません。

“In other words, ---(言い換えます)” これは伝えるときに同じ言葉では理解できないことが多いですので、サービス心も込めて別の言い方に換えますと、「あーそういうことか」と伝わることもあります。逆に「何度もいったでしょう、、、」と怒つたようにいっていた人を見たり聞いたりしますが、やはり相手に伝えなくては独り相撲でもつたない気がします。

(林 茂寛)

同窓会

歯学部

同窓の先生方におかれましたは、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

栃木県支部理事の10期の石川圭司です。当支部の現在の会員数は110名であり、栃木県歯科医師会の会員数が1,030名ですので、その1割以上を占めております。田部井清美支部長の下で活動しておりますが、栃木県歯科医師会役員3名、各地区歯科医師会においては多数の先生方が役職を務め活躍されており、躍進著しい同窓会となっています。

主な年間行事は3つです。1つ目は5月の総会・学術講演会で、母校の教授を講師に迎え開催しておりますが、平成19年度は口腔外科の高田訓教授をお招きして「骨形態と神経機能の再生」というご講演をいただきました。さらに11月には13期の郷家邦昭先生においていただき、「前歯部におけるインプラント治療を成功させるヒント・グローバルスタンダードな捉え方」というご講演をいただきました。日々進歩する歯科医学を学び、診療の技術の向上に役立っていることだと思います。2つ目は9月の懇親ゴルフコンペで、平成19年度は名門のホウライカントリークラブにおいて行われ、4期の長嶋敬夫先生がグロス78というすばらしいスコアでバスグロ優勝するという快挙を達成されました。3つ目は11月最終週に行われる忘年会で、毎年役員の約半数の先生方が出席されます。気さくな先生ばかりなので、何でも相談できることが当会の最もすばらしいところではないでしょうか。夜遅くまで話は尽きません。

このように学問・スポーツ・懇親と三拍子揃った楽しい同窓会です。栃木県においての際には、田部井支部長までご連絡をいただければ、栃木県の魅力を十分にお伝えできることと思います。

(栃木県支部理事 石川 圭司)

同窓生のひろば



久米田 謙

(歯学部11期生)

青森県支部開成会は現在48名の会員で活動しています。本来はもっといるのですが、同窓会に足を運ばれない会員が、ここ4, 5年多くなっているように思います。

しかし、2期生の音喜多先生が支部長になってから、少しずつではありますが同窓会活動が活発になってきてているように思います。それは、青森県を3地区、青森、八戸、弘前に分け、年3回それぞれの地区で役員会を開いて地区の先生も交えて情報交換をしています。

年1度の総会のときは外部から先生をお迎えし、講演会を開きます。ちなみに昨年は34名の参加で「救える命より多く」という演題で救急蘇生について講演していただきました。そのほかに、ゲーム大会（賞金あり）、コンサート（6期梅村先生、10期松野先生によるギター演奏）をしながら夜遅くまで語り合いました。

その次の日はだいたい、ゴルフ大会になります。最近は、1期、2期のシングルプレーヤーが参加しないため寂しいかぎりです。しかし、最近各種大会用に優勝カップを準備しましたので、参加人数が増えることを祈っています。

また、昨年の青森で行われた医療管理学会には、斎藤教授、山崎教授、池嶋講師はじめ母校の同窓生が来青し、20人程が集まり昔話に花を咲かせました。

そのほかに2年に1回広報誌を発行し、その中には診療のヒントあり、診療室の紹介あり、趣味の話ありで結構充実しています。

今年はゴルフのほかにボウリング大会や函館への旅行などの新しい企画も考えています。

最後に、最近若い先生が地元に戻ってきて同窓会に入会していることをうれしく思っています。青森県支部が益々発展していくよう、微力ながら貢献しようと思います。

退職によせて



野中 みどり
(仮文科5期生)

外国語を学習することは多分に興味深いものです。例えば日本語とは別のプロセスで表現されるような場面に出会うと、伝える内容は同じでも、物事の捉え方の違いや異なる処理の仕方を発見することになります。これは、人生の様々な場面において柔軟な考え方と表現力をもたらす訓練にもなることでしょう。

私が初めてフランス語を学び、その驚きと感動に触れることができたのは、奥羽大学文学部に身を置いたおかげでした。当時は分からないことだらけでしたが、「なぜ?」と考えて答えを探ることに没頭する環境を大学は私に与えてくれました。卒業後10年経った今でも、熱心に授業を展開される先生方のお姿がありありと目に浮かびます。

現在私は、宮城県内の私立大学等で非常勤講師としてフランス語を教える職務に就いております。学生達のキラキラと輝く瞳に出会うと、自分の大学生活が思い出されます。同時に、時間を惜しまず教授してくださった先生方に対する感謝の気持が年々強まるばかり、どうしたらこのご恩をお返しできるだろうかと考えたものです。10年前の卒業間近、「今度は皆さんがフランス語を教えてあげてください」と笑顔で言った恩師の言葉を思い出し、「ああ、人の愛はこうして流れてゆくものなのだな」と勝手に自分で納得しつつ、フランス語の授業に励んでおります。そんな中、きれいな発音で「ポンジュール」と声をかけられたり、辞書を駆使しつつフランス語の長文を読み解こうと懸命になる学生達の姿を目につけることは、今の私の何よりの幸せです。



歯学部
宮澤 忠藏

本学で、30有余年の長きにわたり、教職に在職させていただきました。この間、学内関係各位に温かいご支援とご指導を賜り、このたび教育・研究活動を全うすることができました。皆様からの、これまでのご厚情に心から御礼を申し上げます。

70年安保の嵐で世情不安定ななか、私は東京で高校教諭として教育に若き情熱を燃やしていました。しかし、高校教育の道半ば、縁あって1972年4月新設なった東北歯科大学口腔衛生学講座の助手として、着任する機会が与えられました。大学での教育・研究は全くの初心者でしたが、幸い主任教授の清水秋雄先生（現学長）をはじめ多くの良き先輩諸兄に恵まれ、歯科医学探究の態度を養うことができました。なかでも大学院の設置申請に伴い、教員資格獲得の学位取得や研究業績の蓄積が急務となり、これらの目標をクリアするために一層教育・研究活動に没頭することができました。また、私は口腔衛生を起点に化学、文学部、再び口腔衛生そして化学へと所属が変わり、また薬学部の科目をも加え、多種多様な教科に接することができました。さらにこれらの教科をとおし、多くの学部学生と学問を共有することもできました。この経験は、今後の人生に大変貴重な財産として、活きてくると考えております。いま我が国は、65歳以上が全人口の20%を超える高齢社会であり、私も一高齢者としてそのなかに歩み出します。本学で養わせていただいた数々の体験を糧に、元気な老人として高齢社会に参加したいと思っております。

末筆ながら、皆様のますますのご健勝とご多幸、奥羽大学のさらなる発展を祈念申し上げます。ありがとうございました。

人 事

〈退 職〉

宮澤 忠蔵	教 授	生体材料学	3月31日付
小板橋 勉	講 師	口腔外科学	"
菅島 正栄	助 教	口腔病態解剖 制 御 学	"
荒木田安弘	助 手	歯科補綴学	"
大貫 武司	"	"	"
松渕 志帆	"	口腔病態解剖析 制 御 学	"
海野 札子	"	口腔機能分子 生 物 学	"
田代 俊男	講 師	臨 床	"
石原誠一朗	"	"	"
池嶋 一兆	"	"	"
山崎 隆史	"	"	"
築館 勇樹	"	"	"
岡山 英樹	助 手	"	"
河西 敬子	"	"	"
永田 智久	"	"	"
塚本 康巳	"	"	"
遠山 知志	"	"	"
齋藤 哲朗	"	"	"
秋葉 祐輔	"	"	"
江口 和彦	"	"	"
熊野 裕仁	"	"	"
黒田 知英	"	"	"
小磯 和夫	"	"	"
高崎 俊輔	"	"	"
塚本 光	"	"	"
松本 一文	"	"	"
植木 隆一	"	"	"
高橋 進也	"	"	"
勝山 壮 助	手 薬 学 部	"	
鈴木 守	管 理 課 長	總 務 部	"

慶弔

〈訃 報〉

謹んでお悔やみ申し上げます。

●薬学部 熊本 隆之	
祖父 熊本 純三 殿 (93歳)	1月11日
●歯学部 秋葉 祐輔	
祖母 秋葉 ゆき 殿 (89歳)	1月20日
●財務部 鶩見 高志	
実母 鶩見きよ子 殿 (81歳)	2月12日
●歯学部 秋山 哲夫	
義母 山田カネ子 殿 (77歳)	3月30日



郡山自転車ロマン紀行（連載）

〈第6回〉

刀を鍔にかえて～「入植者の碑」をめぐる～

郡山の随所に「入植者の碑」が建っている。数えてみると全部で10基だ。いずれも百十数年前、開拓者たちが実際に入植した地にある。刀を鍔にかえた人々の苦闘の歴史とフロンティアの精神を後世に伝えようと、平成5年から7年にかけて郡山商工会議所青年部が企画、建立したものだ。デザインは統一されており、みかけ石の黒光にはインパクトがある。柱の高さは2メートル。底部の円形台座は猪苗代湖を表わし、柱の下部の荒仕上げは安積野の荒野を、上部の磨き仕上げは都市として栄えるイメージだという。座石に説明文がある。たとえば対面原の土佐藩の碑には「ここ広谷原は荒野原とも呼ばれた荒涼たる原野であった。この原野に明治13年、郡山から千数百キロ離れた南国土佐より、海路・陸路を経て、旧土佐藩士族71戸が入植した。・・・」という具合だ。

近代の郡山は開拓によって成長した。明治6年から16年ごろにかけて、全国各地から続々と入植者がやってきて、土地を拓いた。当時の人口5千人のうち、2千人は入植者だったというから、村はフロンティアの気分でみなぎっていたことだろう。

安積台地はもともと不毛の土地だった。一望千里、北から南へ広漠たる原野が広がっていた。明治に入り、この台地に国内第一号の国営開拓事業の白羽の矢が立てられた。中條政恒を中心とした指導者たちは地元の富商に働きかけ、「開成社」による大規模開拓を行い、政府事業による「五百戸移住」を推進し、灌漑用水として猪苗代湖からの安積疏水を完成させ、急ピッチで開拓事業は進行された。世纪の大事業である。

郡山は、近代国家建設という歴史の変革期を時代背景として、士族授産と殖産興業という明治政府の宿案が、開拓という形で具現化

された、都市形成の面では全国でも特異な町なのだ。

入植は九州の久留米から141戸の585人を筆頭に、鳥取、高知、愛媛、岡山、県内では会津、棚倉、二本松など。まずもって久留米藩の場合、どうやって郡山まで来たのだろうか。旅程日数は41日間。博多から船で横浜へ、汽車で東京へ、川舟を利用して古河へ、そこから家財道具を積んだ荷車を引いて郡山へ。1日40キロは歩く。明治11年のことだ。ちなみに東京都山間の鉄道が開通したのは明治20年。時代という妖怪がそうさせたのだろう。

奥羽大学前の道路を喜久田方面へ行く途中に、宇部神社がある。これはこの地に入植した鳥取藩の人々の精神的団結と神の加護を祈って建立したものだ。その先の日和田から高倉、安子ヶ島の一帯に広がる対面原には久留米、二本松、棚倉、岡山各藩が入植、水天宮や金刀比羅神社を奉祀した。特に久留米藩は大蔵壇原（現久留米町）と対面原（現喜久田町、日和田町）に分れて開拓を行い、郡山の南と北に美田を残した。

入植者の生活は苦闘そのものだった。ここに縷々と記す紙幅は得ないけれど、各種の参



旧鳥取藩士族の「入植者の碑」

考文献によると、もともと生産性の低い土地のうえに、慣れない農事と借金がかさみ、開墾地を手放すケースが続出、多くの移住者たちは小作人になるか、北海道や海外に転出したという。明治末年にはすでに移住者の子孫に残された耕地は10%そこそだったというから、いかに悲惨な状況だったかがわかる。

小説の世界ではあるが、安積開拓地を舞台とした宮本百合子の『貧しき人々の群』は、開拓者の極貧で悲惨な人間模様を赤裸々に描いた名作だ。

開拓から百数10年を経た今日、「入植者の碑」は我々に何を語ろうとしているのだろうか。しばし立ち止まってこの碑に向き合ってみると、言うに言われぬいとおしさが胸に迫ってくるのを覚えるのである。



旧久留米藩奉祀の「金刀比羅神社」

*「入植者の碑」の建立場所
久留米藩士族 日和田町北野
久留米藩士族 久留米公民館前
岡山藩士族 安子ヶ島駅そば49号国道沿い
棚倉藩士族 喜久田町磐梯ドライブイン入口
土佐藩士族 喜久田町南東北総合御園地公園
鳥取藩士族 喜久田町宇部神社境内
二本松藩士 開成山大神宮境内
会津藩士族 大槻町南原 南原公民館前
松山藩士族 安積町牛庭大久保神社そば
米沢藩士族 三穂田町駒屋四十塙原集会所前

*文献の案内 「安積事業誌」 明治30 (『郡山市史資料篇』収載)
『安積開拓史』 高橋哲夫著 理論社 昭和38
『安積開拓物語』 渡辺春也著 福島中央テレビ 昭和51
『久留米開拓百年史』 久留米開拓百年史 編集委員会編 昭和53
『安積野士族開拓誌』 高橋哲夫著 歴史春秋社 昭和58
『安積の時代』 高橋哲夫著 歴史春秋社 平成6

(図書館長 安藤 勝)

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださいようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸甚です。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報118号（通算No243）平成20年3月31日発行

発 行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委 員 長 清 水 秋 雄

963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372 ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp メールアドレス info@ohu-u.ac.jp
